

# 松川浦における稚魚採集と漁獲加入の状況

福島県水産資源研究所 資源増殖部

部門名 水産業－資源管理－その他魚種（海）

担当者 山田 学・佐藤利幸・白土遼輝・守岡良晃

## I 新技術の解説

### 1 要旨

松川浦を稚魚期の生息場とする水産有用魚種について、資源加入水準を予測するため、松川浦の6調査定点でビームトロールを用いた調査を行った。その結果、2020年はスズキ当歳魚の採集密度が高かった。また、2017年に調査において高い採集密度であったシロメバル、スズキが漁獲加入していることが確認された。

- (1) 2020年生まれのシロメバル、イシガレイ、マコガレイの採集密度は平年並みであったが、スズキが高く、2017年を上回った。(図1)。
- (2) シロメバルは、採集密度が高かった2017年生まれが、2020年1月頃から漁獲され始めた(図2)。過去に採集密度と漁獲量との相関が確認されていることから(図3)、今後さらに漁獲量増加に寄与すると期待される。
- (3) 2017年に採集密度が高かったスズキは、2020年1月には漁獲加入するとともに漁獲量が増加した(図4)。底びき網でのCPUE(1時間曳網あたり漁獲量)も増加していた(図5)。今後は、2017年生まれがさらに漁獲量増加に寄与し、2020年生まれが漁獲加入することで良好な状態が続く可能性がある。

### 2 期待される効果

- (1) 対象種の資源状況から、適切な利用につながる効率的な操業を支援することができる。

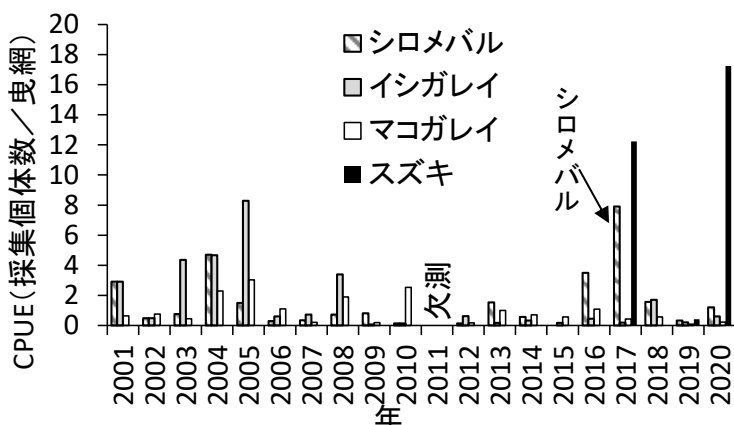
### 3 適用範囲

- (1) 漁業関係者、行政担当者、研究者

### 4 普及上の留意点

- (1) 漁獲状況及び後続資源の漁獲加入状況から、資源動向を注視し、適切な利用につなげていく必要がある。

## II 具体的データ等



※6～10月調査合計(2016は6～9月、2017は6～8月、2018年は5月実施)

図1 当歳魚採集密度の推移

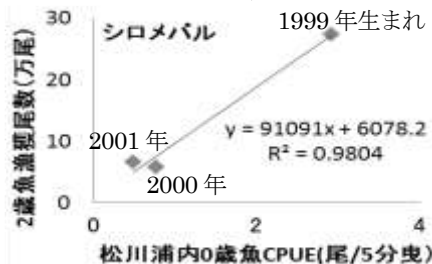
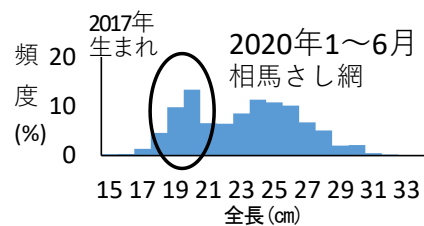


図2 シロメバル漁獲魚の全長組成(上)  
図3 シロメバル当歳魚密度と2歳魚漁獲との関係(下)

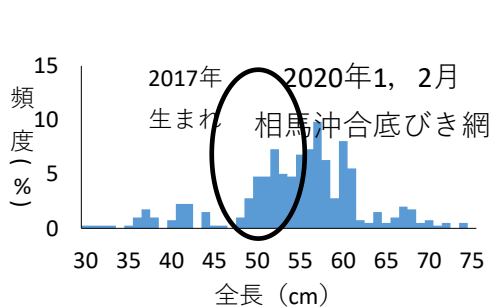


図4 スズキ漁獲魚の全長組成

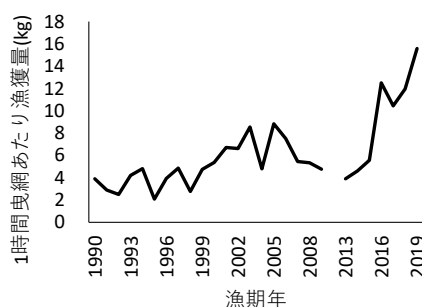


図5 スズキの底びき網1時間曳網あたり漁獲量

## III その他

### 1 執筆者

山田学

### 2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成28～令和2年度
- (2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究

### 3 主な参考文献・資料

- (1) 平成8年度～令和元年度福島県水産試験場事業(概要)報告書
- (2) 山田学他, 松川浦ビームトロール調査による2017年の稚魚採集状況と漁獲加入との相関の検討, 東北底魚研究, 38, p.88-92, 2018.
- (3) 佐々木道也, 茨城県沿岸における魚類資源について—III スズキの漁獲構造について, 茨城県水産試験場研究報告書, 28, p.89-96, 1990.